

九州・沖縄

米軍・自衛隊基地を増強

馬毛島整備に549億円計上

22年度予算案

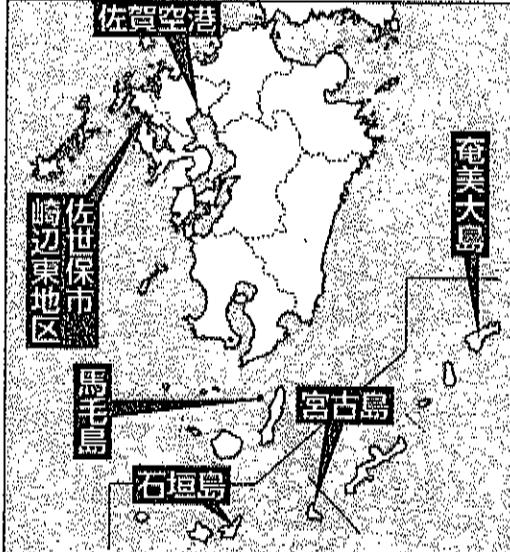
2022年度当初予算案の軍事費で、九州・沖縄での米軍、自衛隊基地の整備に、549億円（歳出ベース）を計上。前年度の31億円と比べ、約18倍の大増額です。滑走路や駐機場など基地本体の工事に予算を充てたのは初めて。

同島での自衛隊施設建設は、環境影響評価が組まれている馬毛島（鹿児島県西之表市）

結果次第では工事ができない可能性もあります。同市長が反対を表明する中での工事強行に、地元住民から「地方自治を無視している」などの批判が高まっています。

陸自V22オスプレイを運用する「輸送航空隊」の佐賀空港への配備計画として佐賀駐屯地（仮称）新設に関する実施設計や敷地造成工事に30億円を計上。

前年度より10億円増えました。



施設や大規模岸壁などの施設整備費として86億円を盛り込みました。「いすも」型護衛艦など複数の巨大艦船が同時に接岸することができる「出撃拠点化」を狙っています。

島嶼（いとう）といった南西諸島への自衛隊配備に伴う施設整備に計128億円を計上。地元の反対を押し切って車両整備します。

長崎県佐世保市の崎辺東地区に、南西諸島防衛のための後方支援